

ブランド豚感染、衝撃



豚コレラの発生確認から2日目、重機による埋却処分が進む中、防護服を消毒してもらう作業員ら＝10日午前10時52分、岐阜市内（撮影・堀尚人）

関係者「残念」「早く収束を」

国内では26年ぶりに豚コレラの感染が確認された岐阜市の養豚場が生産していたのは県有数のブランド豚だった。9日朝に感染の事実が判明すると、県内の養豚業者は農場の消毒作業に追われ、中には風評被害を懸念して出荷先の変更を検討する業者もある。感染した豚の肉を人が食べても影響はないものの、ブランド豚の感染に、関係者に動揺が広がっている。

岐阜発 豚コレラの波紋

<上>

「突然のことなので驚いている。本当に残念」。JA全農岐阜の担当者は当惑した様子で声を落とした。感染の一報が入るとすぐに同一ブランドを生産する養

豚業者に連絡し、ブランド豚を扱う精肉店には人への影響はないと伝えた。取り扱いをやめる精肉店はないと聞き、ひとまずは胸をなで下ろす。

県養豚協会は感染が発覚した9日、30戸の養豚農家に対し、農場の消毒・洗浄や豚の健康状態の確認など

を徹底するように文書で通知した。同協会によると、県内から輸出はされておらず、国の輸出停止の影響はないという。県内で飼育される豚の多くは県内の消費者の口に入ることから、協会関係者は「岐阜の豚肉は安全だと正確な情報を伝えたい」と力を込める。

影響は拡大している。岐阜市から離れた瑞浪市の養豚場の男性責任者は「一過性で終わるものだと言いたい」と気をもむ。数千頭の豚を飼っており、豚コレラを含む感染病を防ぐ薬剤を含むにまきたいという。豚コレラが発生した養豚場と同じ出荷場に出荷しているところから風評被害を懸念する。「愛知県南部などに出荷先を変えようか考えている」と打ち明けた。

小売店は消費者の反応が気掛かりだ。岐阜市内の精肉店の男性経営者は「『岐阜市内の養豚場』という情報だけではお客さんに説明もできない。少ない情報で逆風評被害につながり、商売の妨げになる」と怒りをあらわにする。同市内の別の精肉店では今のところ、来店客から豚コレラに関する質問は特にないうが、店頭に立つ女性には「早く収まってほしい」と祈るように話した。